

作成日 平成 28 年 6 月 1 日

報告者 亀ヶ谷 忠彦

出張報告書

1. 出張者 群馬大学大学院保健学研究科 亀ヶ谷 忠彦
2. 出張目的 ISO/TC173/SC1/WG6 および WG11 会議への参加
3. 出張先 Bologna Exhibition Centre (イタリア・ボローニャ)

4. 日程

5 月 16 日(月)	成田発、フランス・パリ経由、イタリア・ボローニャ着	Bologna Fiera ホテル泊
5 月 17 日(火)	SC1/WG6 会議参加	Bologna Fiera ホテル泊
5 月 18 日(水)	SC1/WG6 会議参加	Bologna Fiera ホテル泊
5 月 19 日(木)	セミナー「褥瘡防止用具の近未来」参加	Bologna Fiera ホテル泊
5 月 20 日(金)	SC1/WG11 会議参加	Bologna Fiera ホテル泊
5 月 21 日(土)	SC1/WG11 会議参加	Bologna Fiera ホテル泊
5 月 22 日(日)	イタリア・ボローニャ出発、フランス・パリ経由	
5 月 23 日(月)	東京・成田着	

5. 内容

5.1 SC1/WG6 について

5.1.1 参加者

AH (オランダ), NDW (スウェーデン), SN (スウェーデン), MB (スウェーデン), VHG(英), WK (米), MM (米国), S S (米), PH (米), MS (独), CD (デンマーク), Tadahiko Karmegaya (日), RB (豪), NO (米, 電話による参加), BA (英, 電話による参加)



図 1. SC1/WG6 会議風景(平成 28 年 5 月 18 日、Bologna Exhibition Centre)

5.1.2 主な報告・審議事項

①ISO 7176-19 について

- ISO 7176-19 Working Draft は現在投票期間中であるため、同 Working Draft に関する積極的な議論は控えられた。
- Annex J for 7176-19 on Docking Considerations (現段階では Draft) で扱われる連結システム docking system の要求仕様やテスト方法について議論された。

②ISO 10542 の NP (New Work Item Proposal) について

- NP (New Work Item Proposal) の主な内容は以下の通りである。
 - a. Annex XX 車椅子固定システムの後方衝突テスト法
 - b. Annex YY 3点膝/ベルト拘束システムの前方向衝突テスト法
 - c. Annex ZZ 頭部・背部拘束装置の推奨デザインと後方衝突テスト法
- ISO 10542-1 の NP (New Work Item Proposal) に対する投票が締め切られた。コメントは米国とオーストラリアのみから得られた
- WG6 はこの NP を CD (Committee Draft) 段階にあるものと認め、コメントへの対応を行なった後、CD として再度投票にかけられることとされた

③自動車の床の固定装置について

- 車椅子製造者、固定装置製造者、自動車製造者の全てが一致して配慮できるような、自動車の床のゾーン群を定義することが提案された。修正中の付録 C に組み込むことが可能か今後検討されることとなった。

④ISO 10542(WD)の修正案について

a. クランプ式固定装置について

- クランプ式固定装置は効果的でなく、一般に普及もしていないため規定から除外する方針とされた。

b. 膝ベルト lap belt の位置について

- 標準的な膝ベルト lap belt のコネクタは、肩ベルトとの連結部、もしくは車椅子上に位置する。膝ベルトは使用者と車椅子に合わせて適合されることの必要性が確認された。

c. 膝ベルトと肩ベルト接合部の標準化について

- 膝ベルトと肩ベルト接合部を標準化することの必要性が確認され、今後検討されることになった。

d. 膝ベルトと肩ベルトの接合部におけるトラブルについて

- 膝ベルトと肩ベルト接合部でトラブルが発生した場合、責任の所在はどうなるのか、という問題が指摘された。
- もしトラブルが発生した場合、拘束システムは異なる複数の供給業者から得られた部品によって構成されるため、そのトラブルは膝・肩ベルト接合部だけに収まる問題ではない、と話し合われた。

e. 車椅子統合型膝ベルト wheelchair integrated lap belt について

- 車椅子統合型膝ベルト wheelchair integrated lap belt の普及数は少ない(おそらくはリスク管理の問題のため)。
- 車椅子統合型膝ベルト と肩ベルトとの接合方式が数種類(ベルト-ベルト Pin bushing 式、ベルト-車椅子 Pin bushing 式、 Stitching 式ほか)紹介され、いずれの方式が適切であるかについて議論された。

f. 搭乗者拘束の負荷制限 load limiting occupant restraints に関する PWI (Preliminary Work Item)

- BA 氏より、搭乗者拘束(肩ベルトなど)の負荷制限の規格化に役立つ実験を開始すると報告された。
- BA 氏によれば、擬人テスト装置 anthropomorphic test device ATD を使用して、衝突時における頸部の張力、胸部の負荷等を測定するとのことであった。メンバーより、肩ベルトの負荷制限はエアバッグと同列に考えてもよいのでは、との意見が出された。

5.2 SC1/WG11 について

5.2.1 参加者

LW (豪), NP(伊), MP (デンマーク), SS (米), KK (米), SC(米), ZL(中), Tadahiko Kamegaya (日), TH (日), TI (日), KN (日), MY (日), CS (米, Webex による参加), KC (米, Webex による参加), BC (米, Webex による参加), BTH (英, Webex による参加), PK (米, Webex による参加)

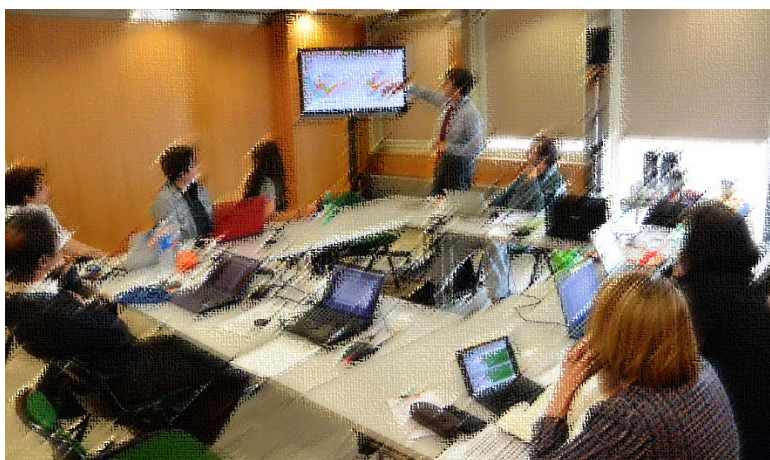


図 2. SC1/WG11 の会議風景(平成 28 年 5 月 21 日、Bologna Exhibition Centre)

5.2.2 主な報告・審議事項

①ISO 16840-1 Vocabulary について

- 改訂原案はほぼ完成した。ただし一部の図の改訂や追加が必要である。
- TH が「アドビ社のイラストレーターソフトウェアを使用して図の改訂や追加を実施できる人物」を探すこととされた。
- ISO ルールと整合性が取れていない部分が判明した。それらを修正の後 CD 投票にかけられることとなつ

た。

②ISO 16840-2 seat cushions について

- DIS 投票が終了した。投票で得られたコメントに対して対応が協議された。一部の検討事項は対応が完了しなかった。それらを解決の後 ISO として発効させることが合意された。今後は「体重が重い人が使用した場合」についても検討されることとなった。

③ISO 16840-3 Determination of static, impact and repetitive load strengths for PSD について

- 2018 年以降に改訂を実施することが確認された。

④TC173/WG11 との関係について

- ジョイントミーティング実施の可能性が引き続き検討されることとなった。11 月にラスベガスにおけるジョイントミーティング実施を検討する(11 月 9 日に当地で開催される「せん断力セミナー」に合わせての実施)。

⑤今後の検討課題候補について

- 褥瘡を引き起こすと言われている「せん断力」について、NP 氏の知見(「褥瘡防止用具の近未来」と題したセミナーで発表)をベースにして、テクニカルレポートを作成することが検討された。
- NP 氏の提案で、QFD(Quality Function Deployment)プロジェクトを新規に実施することが検討された。同プロジェクトは今後も継続されることとされた。
- 「車椅子とクッションの固定方法の規格化」について、SC1/WG1 では取扱わないことが確認された。SC1/WG11 では今後も本件を議題とするか、引き続き関心を払っていくことが確認された。

⑥次期コンピーナについて

- TH が次期コンピーナに推薦された。TH は国内の関係各位と相談のうえコンピーナ就任を受諾するかについて回答することとなった。

以上